



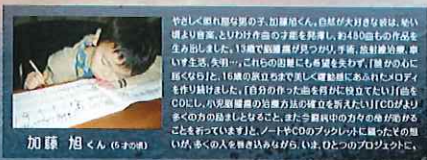
旭くん光のプロジェクト

「好き。」その気持ちが
いのちを照らす光になるから。
音楽を入口に、子どもの幸せを
サポートするプロジェクト。

脳腫瘍という難病に立ち向かいながら、
「自分も役に立ちたい」と失明しても作曲を続け、16年生き抜いた少年。

そして、難しい病気の子どもを救おうと
オールジャパン体制で結集する小児がん専門のドクターグループ。

2017年春、「音楽」をかけ橋に、ふたつの想いがつながりました。



加藤 旭くん (6才9ヶ月)

やさしく照れ隠しな少年、加藤旭くん。自分が大好きな音楽は、楽しい
頃より音楽、とりわけ作曲の才能を発揮し、約400曲もの作品を
生み出しました。13歳で脳腫瘍が見つかり、手術、放射線治療、薬
いず生活、失明…。これらの困難にも希望を失わず、「誰かの心に
届くなら」と16歳の誕生日まで美しく感動にあふれたピアノを
弾き続けました。「自分の作った曲を再び聴くことができない」「曲を
CDにして、小児がん患者の励みや及ぶ希望を伝えたい」「CDがな
り多くの励みとなること、また全日本小児がんの仲間が結集する
ことを祈っています」と、ノートやCDのジャケットに描いたその想
い。多くの人を勇気づけながら、いま、ひとつのプロジェクトに、

Project Members

プロジェクトメンバー



ARTS STREAD
一般社団法人アーツブレッド
人と自然と社会を新しいがたちでつなぐ、音楽
団体。演奏する時、聴く側の方からより生活
に寄り添い音楽の在り方をめざす。



私が
プロジェクトリーダー
です！
ピアニスト 三谷 憲式
昭和音楽大学教授、専門は演奏後援研究、
透明輝きあふれる旭くんのお母さんの魅力を伝
えたいの思いで演奏、旭くんのピアノの視察。



JCCG (NPO) 日本小児がん研究グループ
JCCG理事長 水谷 修紀 Dr.
東京医科歯科大学名誉教授、専門は小児白血
病。自費で同じ病気の子ども達の役に立ちたい
という旭くんの思いを未来に繋げべく、活動。



私が
このプロジェクトを
発案しました！

旭くんの同級生 / 栄光学園有志

【サポートメンバー】
東京女子大学前野 真由美 先生 / 女子大 二期生 藤田 真由美 先生 / 江村 真紀 先生 / 中野 真由美 先生

本プロジェクトにご賛同くださる方は、
おひとりおひとりが大切なプロジェクトメンバーです。
プロジェクトメンバーは常に募集中！ぜひあなたの手をかりてください。



本プロジェクトにご賛同くださる方は、
ぜひ公式Facebookページに
「いいね」をお願いします



【お問合せ】

旭くん光のプロジェクト 事務局

〒169-0074 東京都杉並区上高井戸2-17-27 一般社団法人アーツブレッド5F
TEL: 070-5555-5920 / 070-1245-1014 (直通) FAX: 03-5539-3654
E-mail: info@hikari-no-project.com HP: http://hikari-no-project.com



ASAHI HIKARI-no PROJECT 旭くん光のプロジェクト



【旭くん光のプロジェクト】目標①

まずは「音楽」から。
子ども達の「好き」を応援。
子どもたちが幸せな気持ちになる演奏会を企画します。
コンサートやCDの売り上げの一部は、
難病と闘う子どもたちを支援する団体に寄付いたします。



旭くんの言葉より
「僕はまた音楽が好きですが、人それぞれ好きなことは違います。病気で入院している子どもたちは、そうでない子も、それぞれ自分で何がしたいという気持ちを持っていると思います。その子は何がしたいのか、そのために何ができるのか、ということをごCDをきっかけに考えていただくと嬉しいです。」

【旭くん光のプロジェクト】目標②

小児医療の現場から。
必要な情報を、必要とする人へ。
子どもの病気と、ともに闘っている先生たちを中心に
情報発信や講演活動を行います。



病気に立ち向かいながら必要な情報を集めるのは難しいもの。子どもの病気の専門の先生が、まだよく知られていない病気のことなどをお伝えする機会をつくります。また、病気のきょうだいがいる子の気持ち、まだ救えない命がある現実、小児がんなどについて知っていただく催しを企画。どんな手助けがあるのか、自分に何ができるのか、ぜひ一緒に考えていきましょう。

【旭くん光のプロジェクト】目標③

たとえば、ボランティアから。
いのちの大切さを考えるきっかけづくり。
私たち一人ひとり、それぞれに出来ることがきっとある。
気軽に参加できるボランティア活動の場を企画します。



相手の手をそっと握る、それだけで心が通うことがあります。そんな、肩に力を入れない、どなたでも気軽に参加できるボランティア活動や交流の場の提案を進めています。皆さまからの、プロジェクトとのコラボレーション企画もいつでも募集中です。